2012年12月25日

各　位

会社名　イ　オ　ン　株　式　会　社
代表者名　取締役兼代表執行役社長　岡田 元也
（コード番号８２６７　東証第一部）
問合せ先　執行役社長室責任者　平林 秀博
（電話番号　０４３－２１２－６０４２）

当社子会社（株式会社コックス）の業績予想の修正について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社である株式会社コックス（ＪＡＳＤＡＱ：コード９８７６）が、2012年4月5日に公表した2013年2月期（2012年2月21日～2013年2月28日）の通期業績予想を添付資料のとおり修正することとなりましたのでお知らせします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上

平成 24 年 12 月 25 日

各　位

会 社 名　　株式会社コックス
代表者名　　代表取締役社長　　吉竹　英典
（ＪＡＳＤＡＱ・コード９８７６）
問合せ先
取締役経営管理部長　　速水　英樹
ＴＥＬ０３（５８２１）６０７０

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年４月５日に発表いたしました平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（Ａ）	25,740	400	500	50	1.81
今回修正予想　（Ｂ）	23,500	△810	△640	△970	△35.18
増　減　額（Ｂ－Ａ）	△2,240	△1,210	△1,140	△1,020	―
増　減　率　（％）	△8.7	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年２月期）	24,576	△1,061	△890	△1,848	△67.09

２．平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（Ａ）	25,390	450	550	100	3.63
今回修正予想　（Ｂ）	23,300	△700	△530	△1,150	△41.71
増　減　額（Ｂ－Ａ）	△2,090	△1,150	△1,080	△1,250	―
増　減　率　（％）	△8.2	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年２月期）	24,520	△999	△829	△1,783	△64.72

３．修正の理由

上半期においては、前期から継続の構造改革を進めたこと、市場動向に左右されず自ら積極的な仕掛けをしたことが功を奏し、収益力の回復につながりました。特に、メンズの好調により主力の「ｉｋｋａ」が堅調に推移し、全社を牽引しました。また、各ブランドのアウトレット機能と、これらを補完するオリジナル商品群でお買い得感を提案する業態「CURRENT」の成長などが大きく採算改善に貢献しました。「ＬＢＣ」はコンセプト、出店立地を見直し、マーチャンダイジングの強化など内部充実を進めた結果、エキナカなど都市部出店店舗の坪当り売上高は郊外店舗に比べて、５割ほど高く推移しました。「VENCE EXCHANGE」は、４月に旗艦店のダイバーシティ東京店を開店し、また、中国出店も加速しました。

当第３四半期においては、売上高増加による販管費率の改善、商品回転率向上による売上総利益率の改善を実現することで収益構造を黒字体質に転換することを目指しました。このために、上半期の成功事例を継続しながら、事業構造改革とマーチャンダイジング構造改革の推進を政策の機軸として取り組みました。事業構造改革では、「ｉｋｋａ」を主軸として売上高構成比を再設計する方針に基づき、「ｉｋｋａ」店舗を 22 店舗改装しました。また、立地・客層に合わせ、他ブランドから「CURRENT」店舗への業態変更を９店舗実施しました。マーチャンダイジング構造改革ではファッション動向への連動と高荒利益率商品ラインの拡大を柱に、メンズアパレル及び服飾雑貨の更なる販売拡大を図り、売上高構成比を見直してまいりました。

しかしながら、夏のバーゲン後ろ倒しの影響による夏物消化の遅れ、記録的残暑の影響による秋物販売の低迷、在庫処分による荒利益率低下などにより、業績は第３四半期に入って大変厳しい状況で推移しました。また、当初 60 店舗を計画していた今年度の新規出店が、40 店舗に留まる見込みであることから、この出店減少を補うべく店舗改装の活性化投資を実施し、収益拡大を図りましたが、第３四半期３ヶ月間で前年売上高を超過することができませんでした。売上高につきましては、11 月中旬の気温の低下とともにやや持ち直してまいりましたが、今後も厳しい状況が続くと予想され計画と乖離する見込みとなりました。

一方、販管費は当初計画から上半期に約３億 65 百万円を削減、下半期には更なる削減を見込んでいるなど、ローコストオペレーションを一層強化してまいりましたが、売上総利益のマイナスをカバーするには至りませんでした。

以上の結果、通期の連結業績は、売上高 235 億円、営業損失８億 10 百万円、経常損失６億 40 百万円、当期純損失９億 70 百万円と当初予想を下回る見込みとなりました。

以　上